

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社GSユアサ 代表取締役 依田 誠								
事業者の主たる業種	各種蓄電池、電源システム、照明機器およびその他電気機器の研究・開発・設計・製造・販売								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月 ～ 平成 23年3月								
基本方針	環境マネジメント活動によって、省エネルギー活動を展開し、温室効果ガスの削減を行なう。								
推進体制	事業所長を委員長とする環境管理委員会が計画および月次管理を行い、また専門委員会（エネルギー委員会）活動を通じて温室効果ガス削減活動を展開する。								
環境マネジメントシステム名称	ISO14001		ISO14001						
	適用範囲		京都事業所		長田野事業所				
	取得年月日		1997/12/24		1998/5/20				
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措 置 内 容						
	平成22	京都事業所	天井照明の省エネ化(高効率タイプ)置換え、個別スイッチ設置など、工程内不良低減、コンプレッサ設備などの運転方法改善および省エネ型導入						
	平成22	長田野事業所	飲料水自動販売機の省エネタイプ置換え、空調機の適正運転の徹底、集塵機の稼働時間短縮、エアコンプレッサ発生圧を下げることによる稼働電力削減						
温室効果ガスの排出量等	排出区分		基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）		
	A 事業所等排出区分		65,415 t	71,155.0 t	8.8 %	62,160.0 t	-5.0 %		
	B 輸送車両排出区分		t	t	%	t	%		
	C その他排出区分		t	t	%	t	%		
	排出合計		*1 65,415 t	*2 71,155.0 t	8.8 %	*4 62,160.0 t	-5.0 %		
実績に対する自己評価		事業所全体として、生産量が減少した事によりCO2排出量は減少している。ただし今年度EV、HEV用Li-ion電池生産ラインが新設・稼働した為、昨年との比較では排出量が増えている。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	京都事業所	二酸化炭素換算 （生産・売上額）	0.003513 t/万円	0.003328 t/万円	-5.3 %	0.003447 t/万円	-1.9 %		
	長田野事業所	二酸化炭素換算 （生産高）	0.01897 t/万円	0.01475 t/万円	-22.2 %	0.01408 t/万円	-25.8 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価		生産物量に比例した部分についてはCO2排出量が減少しているが、試験設備や事務所等間接業務については変化が無い為、原単位としては伸び悩んだ。また今年度EV、HEV用Li-ion電池生産ラインが新設・稼働したが、同ラインは今年度は試運転であり生産高に寄与しないため原単位も昨年度より悪化した。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分		目標年度（計画）		報告年度（実績）				
			取組量等	（二酸化炭素換算）	取組量等		（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3 t		*5 t		t	
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）		基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		1 65,414.8 t	()2-(*)3 71,155.0 t	8.8 %	(*)4-(*)5 62,160.0 t	-5.0 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネランプ「エコセラ」の拡販。 ・地域小学校に対する環境学習会を実施。 ・京都市ライト・ダウンに参加し、毎月16日の消灯を実施する。 								
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・燃費向上バッテリー、省エネランプ、新型リチウムイオン電池など、環境貢献製品に注力する。 ・グリーン調達活動を通じ、取引先における環境取組みをサポートする。 								

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。